

第5学年 社会科学学習指導案

1 小単元名 「水産業のさかんな博多漁港」

2 指導観

○ 子ども研究から見えたもの

本校区は福岡市の内陸部にあり、子ども達に水産業は身近なものではなく、実際に働いている場面を見たことがある児童は少ない。また、毎日のように水産物を食していて水産業は自分たちの食生活に関連が深い、日本で水産業がさかんな事や、水産物がスーパーや魚屋の店先に並ぶまでにどう流通してきているのか考えが及んでいる子は少ない。子ども達はこれまでの学習における追究する場面で、自分の考えを固めるための資料を表現物として用意し、自分の考えと友だちの意見と比較してきている。前小単元では「農業」の学習においては、農家の姿を通して、生産の現状や課題、そこで働く人びとの工夫や努力、悩みや願いなどについて学んだ。

○ 教材の価値・意義

本単元では、水産業の特色や問題点、従事する人々の工夫や努力を調べ、今後の水産業について考えることができるようにすることを目標にしている。

博多漁港にある福岡市中央卸売鮮魚市場は、博多港で水揚げされた玄界灘、東シナ海などの水産物を、福岡都市圏をはじめとして全国に供給している。また、遠洋巻き網漁をはじめ遠洋漁業や沿岸漁業などの水産基地になっている。特に、大陸棚の広がった海峡周辺では中国大陸の黄河から流れてくる豊富な栄養を含んだ海水や、寒流と暖流がぶつかることから好漁場として有名で対馬西岸でとれるアジ・サバは全国屈指の水揚げ量を誇る。そして、博多漁港の水揚げ金額は全国1位である。これは、水産業に携わる人々の工夫や努力があるからである。これらのさまざまな工夫や努力を追求していくことで、水産業に関わる人々が私たちの食生活を支えていることや、新鮮なまま消費者に届けるための運輸の働きに気付くことができる。そして、水産業の課題やこれからのあり方について考えを深めることができることは大変意義深いと考える。

○ 指導・支援の方法

(つかむ段階)

- ・ 鮮魚市場業務課のIさんと卸売り人のSさんに出会い、博多漁港の朝の様子と「せりの映像」を子どもたちに見せる。声の大きさや働いている人の多さ、数多くの水産物などがあつという間に競り下ろされている映像からこれから学習する水産業について興味・関心をもたせる。
- ・ 9月分の給食献立表から水産物調べをする(18日中10日)さらに日本の1日の水産物消費量が世界1位である事実を伝え、わたしたちの生活と水産業との関わりの深さへの認識を深めさせる。
- ・ 水揚げされた水産物がどうやってわたしたちに届けられるか知り、漁師のTさんに出会うことで運輸の働きや人々の工夫や努力について興味・関心をもたせる。
- ・ 博多漁港の水揚げ量は全国11位なのにもかかわらず、水揚げ金額は1位であることの矛盾から学習問題をつくる。

(さぐる段階)

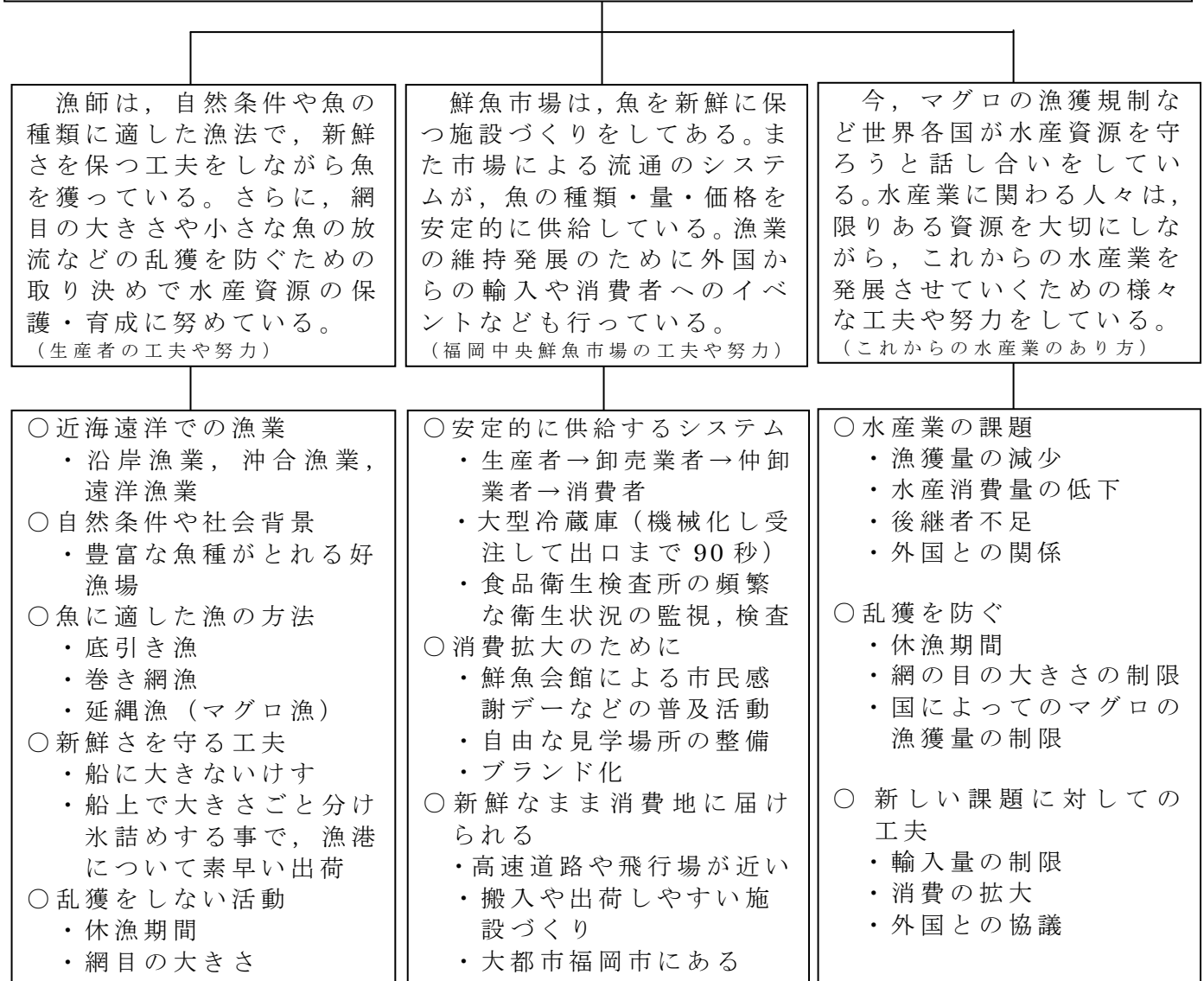
- ・ 実際に鮮魚市場の見学し、インタビューしたり、漁師・卸売り人・鮮魚市場業務課に人の話を聞いたりすることによって水産業に関わる人々の工夫や努力を表現物にまとめ、小グループでの交流活動を行う。
- ・ 交流活動をもとに自分の考えを付加・修正する。

(まとめる段階)

- ・ まとめた表現物をもとに、資料を提示しながら話し合いができるようにする。
- ・ 自分の考えを付加・修正・強化するためのグループによる全体交流を行う。
- ・ 学習問題の答えを出した後、水産業における課題を提示し、学習してきたことを生かしながらこれからの水産業のあり方への考えを深めさせる。

3 単元構成図

わたしたちは、鮮魚市場を中心とした流通の仕組みや自然を生かして漁をする人々の工夫や努力のおかげで、毎日いろいろな種類の水産物を安定した価格で手に入れることができる。博多漁港は、よい漁場が近くにあり大量消費の福岡市という立地条件や鮮魚市場で働く人々による売り方の工夫や努力などにより、「水揚げ金額全国一」になっている。これからの水産業には多くの課題が残っているが、ひとつひとつ解決していくためにはそれぞれの立場で工夫していくことが大切である。



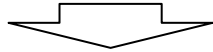
4 目標

- わが国の水産業と国民生活とのかかわりに関心をもち、水産業の特色や問題点、水産業に従事する人々の工夫や努力を意欲的に調べ、水産業の発展を願う態度を育てる。
(関心・意欲・態度)
- わが国の水産業の特色や問題点、水産業に従事する人々の工夫や努力について得た多様な事実から、水産資源の保護や育成に努めることが、今後の水産業にとって必要であることを考えることができるようにする。
(思考・判断)
- 地図やグラフ等の資料を活用したり、福岡中央卸売鮮魚市場の様子を見学し、そこではたらく人の話を聞いたりした中から自分の課題を解決するために必要な情報を選び、自分の考えを具体的事実に基づいてまとめ、表現することができる。
(観察・資料活用・表現)
- 水産業に従事する人々は、国民の食料を確保するために、生産を高めるとともに、水産資源の保護、育成のため、様々な工夫や努力を行っていることをとらえることができるようにする。
(知識・理解)

5 指導計画（14時間）

過 学 程 習	主な学習活動と内容	留意点(○)評価基準(※)	配 時
つ か む	<p>1. わたしたちの暮らしと水産業とのかかわりの深さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鮮魚市場業務課のIさんに出会い博多漁港の中央卸売鮮魚市場（以下鮮魚市場）で行われている「せり」に関心をもち、わたしたちの生活に身近な水産業に関心をもつために、博多漁港で行われているせりの映像を流し、その様子に着目させる。 ○ たくさんの人々がかかわっている事に気付き、どうやってわたしたちの家庭まで届くのか疑問を持たせるために、卸売り人のSさんが沢山の仲買人とせりをしている映像と写真を見せ、何をしているか話し合わせる。 ○ 水産物の写真 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物の言葉と、水産物について ○ 9月の給食献立表で水産物調べ <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産物をたくさん食べていること ○ 主な国の一人1日あたりの水産物消費量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日1人あたりの水産物消費量が1位 	<p>※ 関心・意欲・態度</p> <p>○身近にある水産物に気付くさせるために、博多漁港で水あげされた良く知っている水産物を掲示する。</p> <p>○わたしたちがたくさんの水産物を消費している事に気付かせるために、9月の献立表を使って水産物調べをする。</p> <p>○福岡市でも水産物が大量に取り扱われていることに気付かせ、その理由について興味をもたせるために、博多漁港に水揚げされた鮮魚市場の映像や写真を見せる。</p>	1
	<p>2. 日本の水産業の現状を知らせる。</p> <p>(1) 自然環境とのかかわりや漁業の種類について調べる。</p> <p>博多漁港の水あげ量</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然環境とのかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は海に囲まれ、海流、大陸棚などの好条件が整っている ○ 日本の近海・遠い海での漁業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸漁業, 沖合漁業, 遠洋漁業 <p>(2) 水あげされた水産物がわたしたちに届けられるまでを調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鮮魚市場の仕組み(卸売り, 仲買, 売買参加者) ○ 高速道路を使った流通(運輸のしくみ) ○ 博多漁港へ水産物が運ばれてくる各地の漁港 ○ 博多漁港以外の主な漁港と水あげ量(漁港の位置, 漁獲量) <p>(3) ○○の底引き網漁に従事する漁師Tさんの工夫や努力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ○○漁港の場所 ○ 漁師さんの1日の仕事 ○ ○○漁港から博多漁港までの運輸 <p>3 博多漁港の様子について調べ、学習問題を立てる。</p> <p>(1) 博多漁港と全国の漁港の年間水あげ量について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博多漁港の年間の水揚げ量 ○ 全国の漁港の年間水揚げ量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 博多漁港が11位 <p>(2) 博多漁港の水揚げ量と水揚げ金額を比べ学習問題を立てる。</p>	<p>○わたしたちの家庭にとどくまでの経緯を調べさせるために、教科書や資料集で調べる。</p> <p>○漁港から博多漁港への水産物の運輸方法を考えさせるために、博多漁港で取り扱われている水産物の割合のグラフを見せる。</p> <p>○水産業に携わる人々の工夫や努力に気付くために、○○漁港で漁師をしているTさんの話を聞く。</p> <p>○博多漁港の水あげ量と水あげ金額のグラフから博多漁港についての問題意識をもたせる。</p>	2 ① ① 2 ①

- 全国の漁港の年間水揚げ金額
 - ・ 水揚げ量と水揚げ金額の違いに疑問をもつ



< 学習問題 >

博多漁港の水あげ金額はなぜ全国 1 位なのだろう。

／ さぐる

(3) 学習問題に対する考えを話し合い、調べる視点や表現方法を決める。

【予想される子どもの考え】

- 近くに良い漁場がある（自然条件）
- 魚の種類が多い（たくさんの魚が集まる）
- 交通網が発達している（運輸の仕組み）
- 高い魚をたくさん仕入れている（魚の種類）
- 売り方に工夫がある（鮮魚市場の工夫）

【調べる視点】

- 鮮魚市場で取りあつかわれている魚の種類や量、働いている人の工夫、鮮魚市場の構造
- 博多漁港のまわりの漁場やとり方など漁師さんの工夫
- 博多漁港への出入荷の運輸の仕組み

4. 学習問題に対する考えに沿って調べ表現物にまとめ、調べたことをもとに中間交流会を行う。

(1) 自分の考えの根拠について調べる。

- 福岡中央卸売鮮魚市場の見学をする。
 - ・ 鮮魚市場のしくみと出来るまでのビデオ
 - ・ 食品衛生課の人のお話
 - ・ 鮮魚市場の見学
 - ・ 魚を新鮮に届けるための工夫
- 見学で調べてきたことと教科書や資料集で調べること、FAX、インターネットで調べたことをもとに、自分の考えを表現する。
 - ・ 自分が考えた表現物の根拠となる事実を集める。
 - ・ 集めた事実を根拠に水揚げ金額が 1 位のわけについてフリップに表し、考えが違う友達に伝えるための表現方法を考える。

(2) 自分たちの表現物をもとに中間交流会を行う。

- 自分の主張点や、考えが違う人への質問や意見を明らかにする。
 - ・ 考えの違う 4 人のグループで話し合う。

(3) 友達からの意見や指摘をもとに自分の考えを見直す。

- ・ 足りなかった根拠や質問されたことを調べる。
- ・ 表現物に付け加える。

5. 表現物をもとに学習問題について話し合う。

(1) 自分の考えに沿って作った表現物をもとに学習問題について話し合う。

※ 資料をもとに自分の考えを作ることができる（思考・判断）

○ 調べる計画を立てやすくするために、前時の板書を使って振り返させたり、小グループでの話し合いを設けたりする。

○ 見学を通して調べたいことをつかませるために、事前に質問内容を FAX し、見学コースや話し合ってもらった内容を確認しておく。

○ 子どもの問題を解決するために、FAX で中央卸売市場の I さんに質問できるように打ち合わせしておく。

○ それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるようにするために、根拠となる資料を拡大し教室内に掲示する。

※ 自分の考えを表現物に表している。

○ 自分たちの表現物をもとに明らかになった違う考えのグループへの意見や質問、それに対する答えをあらかじめ準備し話し合いが活発になるようにする。

※ 友だちとの共通点を考え、考えを見直している。

○ それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるようにする。

①

4

②

①

①

①

A：鮮魚市場の工夫

- ・大型冷蔵庫
- ・市場内の食品衛生管理
- ・市場のつくり（衛生のため、市場の導線、せりの早さ、広さ、魚の種類が多い）
- ・全国からたくさんの人が集まる

B：立地条件がよい

- ・高速道路が近く他の漁港からも卸した後も運びやすい
- ・新鮮なままの運輸ができる
- ・福岡市にあるので新鮮なまま近くのお店に運べ、消費量が多い
- ・新鮮なので魚の値段が高い

C：良い漁場がある

- ・福岡県のまわりは大陸棚に囲まれよい漁場
- ・暖流が近くを流れているので魚が多くいろいろな種類の魚が取れる
- ・新鮮なブリが多く捕れる

D：人々の工夫

- ・魚が傷まないように運ぶ
- ・いけすや発泡スチロールなど新鮮さを維持する工夫
- ・漁師さんのとり方の工夫
- ・こまめな鮮度チェック
- ・良い水産物をブランド化

博多漁港は、近くにより漁場があり、高速道路が直結しているのので、日本全国や外国から約300種類以上の水産物が水揚げされ、時期によってブランド化して売っている。それを求め全国から仲買人が集まっているので水産物の値段も安定し高く売れる。また、鮮魚市場で働く卸売り人や食品衛生検査所の人たちが売り方や食の安全を守る工夫や努力をしている。さらに、大都市福岡市という立地条件もあり、消費量も多いので全国1位の水あげ金額を誇っている。

にするために自由に動けるような学習形態にする。
※多面的に考え話し合いを進めている。

／
ま
と
め
る

(2) 博多漁港の水揚げ量が年々減少していることを知り、その理由を考えさせる。
○ 博多漁港の3年間の水あげ量グラフ

○博多漁港の水揚げ量が年々少なくなっている事に気付かせることで、これからの水産業の課題について考えることができる。

／
つ
か
む

6. 水あげ量が減っていることを、身近にあり子どもたちがよく食べている食材「マグロ」に焦点をあてて理由を考えさせる。
(1) マグロの全国の水あげ量グラフから年々水あげ量が減っていることを知る。
○ 日本人が1番食べている魚であること
○ 日本人が世界で1番マグロを食べている事
○ 半分以上外国から輸入している
○ マグロの漁獲量が減ってきている

○これからの水産業のかかえる問題について考えるために、マグロ減少問題を取り上げる。

【学習問題2】
これからもマグロを食べ続けるにはどうしたらいいか

／
さ
ぐ
る

7. 学習問題に対する予想を話し合い、追究する。
(1) 学習問題に対する考えを話し合い、前時までの考えをもとに追究し表現物にまとめる。
【予想される子どもの考え】
○ まぐろのとり方を変える
○ まぐろを育てる

○調べる計画を立てやすくするために、前時の板書を使って振り返させたり、小グループでの話し合いを設けたりする。

A：とる漁業を考える

- ・小さいマグロまでとりすぎないように編み目を大きくする。
- ・とる時期を決めて、とる数を減らす

B：育てる漁業を考える

- ・養殖の技術をもっとあげる
- ・環境を破壊しないように、環境に優しいえさをつくる。

○養殖・蓄養漁業についておさえるために追加の自作資料から調べさせる。

2
①

2
①

(2) 自分たちの表現物をもとに中間交流を行う。
○ 自分の主張点や、考えが違う人への質問や意見を明らかにする。

(3) 友達からの意見や指摘をもとに自分の考えを見直す。
・ 足りなかった根拠や質問されたことを調べる。
・ 表現物に付け加える。

9. 表現物をもとに学習問題について話し合う。

(1) 自分の考えに沿って作った表現物をもとに学習問題について交流する。

A: とる漁業を考える
・ 小さいマグロまでとりすぎないように編み目を大きくする。
・ とる時期を決めて、とる数を減らす

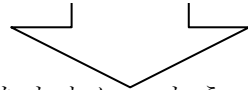
B: 育てる漁業を考える
・ 養殖の技術をもっとあげる
・ 環境を破壊しないように、環境に優しいえさをつくる。

(2) Iさんのインタビューと資料をもとにAとBの考えが世界中でも話し合われていることを知る。

資料: 地域漁業管理機関

・ 多くの国が日本に輸入しているの、その量を減らす。
・ 畜養の場合も世界でとる量を決める必要がある。

(3) マグロの地域漁業管理機関の資料からマグロを規制する機関が5つあり、それぞれの団体が規制が違うことを知る。



(4) 交流活動をもとに、もう一度学習問題の答えをつくる

マグロは限りある世界の水産資源である。マグロ漁師は世界での取り決めを守り、これからもマグロをわたしたちに届けられるように努力を続けている。また水産資源を守るために環境問題や漁獲量について世界で話し合われている。このように、水産業に携わる人々は将来の水産業を支え、わたしたちの食生活を支えるために努力し続けている。この取り組みを続けていけばこれからもマグロを食べ続けることができるだろう。

(4) これからの水産業について考える。

○表現物を事前にみられるようにして、違う考えのグループへの意見や質問、それに対する自分たちの答えをあらかじめ準備し、話し合いが活発になるようにする。

○それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるようにするために自由に動けるような学習形態にする

○マグロ減少から見えてくるこれからの水産業の問題への考えを深めさせるようにする。

○世界の海がそれぞれ違う決まりを定めていて、その決まりも守られていない実態からこれからの水産業について考える。

①

1
本
時

まとめ

6 本時 14 / 14
平成22年9月 日() 校時

7 本時の目標

- 環境問題や乱獲により漁獲量が減っている中、水産業に携わる人々や消費者の双方の立場に立って考え、自分の考えを見直すことができる。
- よりよい消費者になるためにこれからどのようなことを考え、どのような行動をしていけばよいかを「学習を振り返って」に進んで書くことができる。

8 本時指導にあたって

○ 本時のねらい

本時では、学習問題の答えを話し合うことによって、マグロ漁にかかわる問題を考え、マグロの問題を通して、これからの水産業の課題に気付かせることをねらっている。

前時までに子どもたちは、学習問題「これからもマグロを食べ続けるにはどうしたらいいか」について、子ども達は、「A：マグロのとり方を工夫する。」「B：マグロを育てて数を増やす。」の2つに考えに分かれ、自分なりの考えを持ち意欲的に追究してきている。追究するための資料として、前時までに学習した内容や追加の資料、IさんやTさんへのインタビューから具体的な根拠を集め、一人ひとりがしっかりと根拠がわかり、相手に伝わる様に表現物を整理してまとめている。また、中間交流から話し合いの場面で、資料をもとにして発表ができるように、お互いに出し合った質問や確かめた内容をもとに、もう一度表現物を見直し、根拠を準備している。

○ 交流活動の工夫

質問することや自分が質問されたときの答えをしっかりと準備し、全員が意見や質問をできるようにするために、事前にどのような学習問題の答えやその根拠をもっているか把握し、必要ならば助言するなどして考えを作らせておく。また、それぞれの考えを、資料を指し示し、それを根拠にして発言できるようにするために、根拠となる資料を拡大し教室に掲示することで、質問や意見の交流がしやすい環境をつくる。

自分の考えを発表する時には、自分で作成した資料や掲示してある資料を指しながら発表し、聞いている子ども達には質問や分かりにくい部分の確かめなどをしっかりとさせ、活発な交流活動ができるように仕組んでいきたい。

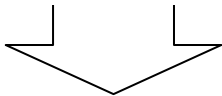
○ 教師が提示する資料の意味

本時では、「A：マグロのとり方を工夫する。」「B：マグロを育てて数を増やす。」の2つに考えを話し合った後、Iさんの話と地域漁業管理機関の分布の資料を提示し、Aの考えとBの考えのどちらの考えも世界中でも話し合われている内容のものであるということを確認する。さらに、世界中で水産資源を守るために話し合いが行われ、わたしたちの生活を支えてくれていることに気付かせたい。しかし、世界中の海によって様々なきまりがあり、統一されていないという問題点もあることとらえさせる。

○ 指名の意図

全員が発表できるように、一覧表を作成する。交流活動の際に考えができるだけだんだんと深まっていくように指名していくようにする。また、質問や確かめる発表が多い児童にチェックをつけ、その中でも順をつけておく。最初に発表する代表児童は、ほとんどの子ども達が考え付いた考えの中から、資料と根拠がしっかりと繋がった発表ができる子を選び、次の発表する子につながるように考えた。

9 本時の展開

主な学習内容と内容	留意点 (○) と資料 □)
<p>1 本時学習のめあてを確認する。 めあて</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学習問題の答えを話し合い自分の考えを確かめよう</p> <p>2 学習問題について話し合う。 (1) 自分の考えに沿って作った表現物をもとに学習問題について話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A：とる漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さいマグロまでとりにすぎないように編み目を大きくする。 ・とる時期を決めて、とる数を減らす </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B：育てる漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養殖の技術をもっとあげる ・環境を破壊しないように、環境に優しいえさをつくる。 </div> </div> <p>(2) Iさんのインタビューと資料をもとにAとBの考えが世界中でも話し合われていることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料：地域漁業管理機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの国が日本に輸入しているので、その量を減らす。 ・畜養の場合も世界でとる量を決める必要がある。 </div> <p>(2) マグロの地域漁業管理機関の資料からマグロを規制する機関が5つあり、それぞれの団体に規制が違うことを知る。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>(4) 交流活動をもとに、もう一度学習問題の答えをつくる</p>	<p>○ 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。 前時までの学習の流れ</p> <p>○ 事前に発表する内容を把握し、視点の違う2つのグループを提案させ、提案しない児童は付け加えなどで意見交流させる。</p> <p>○ 世界の海がそれぞれ違う決まりを定めていて、その決まりも守られていない実態からこれからの水産業について考える 地域漁業管理機関の範囲と規制内容の資料</p> <p>○ IさんやSさんの話を聞き、資料からこれからの博多漁港の問題について自分の考えを話し合う。</p> <p>○ 調べたことを発表し、学習問題の答えをまとめる。</p>
<p>マグロは限りある世界の水産資源である。マグロ漁師は世界での取り決めを守り、これからもマグロをわたしたちに届けられるように努力を続けている。また、水産資源を守るために環境問題や漁獲量について世界で話し合われている。このように、水産業に携わる人々は将来の水産業を支え、わたしたちの食生活を支えるために努力し続けている。この取組を続けていけばこれからもマグロを食べ続けることができるだろう。</p>	
<p>3. これまで学習してきたことを振り返り、発表する。</p>	<p>○ 「学習を振り返って」を書き書いたことを発表する。</p>

10 交流の構想図


◎本時交流の構想図◎

<めざす子どもの姿> わたしは、はじめ漁獲量が減っている理由は魚をとりすぎているから漁師さん達が獲り方のきまりをつくって網の目を大きくしたり、獲る時期を決めたりすればいいと思っていました。その根拠は、巻き網漁など魚を根こそぎ獲っている船が多くなったり、魚群探知機や網を機械などの発達で魚が獲りやすくなったりしているという事実からです。しかし、「育てる漁業」という視点からもう一度見直してみると、とり方だけでなく、養殖や蓄養・栽培など育てる漁業もおこなわれていることが分かりました。また、国際会議でもまぐろを守るために話し合いが続けられていることがすごいなと思いました。わたしは、まぐろを通してわたしたちの生活に密接にかかわる水産業の問題がこれからどうなるか注意していきたいと思いました。そして、水産資源を大切にするためにも魚を大事に食べたいと思います。

9 / 27 水産業のさかんな博多漁港

学習問題 これからもまぐろを食べ続けるにはどうしたらいいだろう
めあて 学習問題の答えを話し合い自分の考えを確かめよう

まぐろ



日本人の1番好きな魚
 世界消費量世界1位
 半分以上輸入
 最近外国でも人気
 数が減ってきている

マグロを守らないと!

とる漁業を考える

① <漁師さんが工夫>
 ・ 網の目を大きくする
 ・ 休漁期間をつくる

④ 論点1: 獲る量
 ・ とりすぎてしまうのでは
 ・ 結局天然のまぐろをとる
 ・ 減らさず養殖で

⑤ 論点2: 環境問題
 ・ 海を汚してしまうのでは

⑥ 数を増やすにも限界がある。
 ・ 環境にも気をつけないと
 ・ えさ代の費用がかかる

育てる漁業を考える

② <養殖をする>
 ・ 和歌山で成功しているから
 ・ 獲ると魚がへるから

<蓄養をする>
 ・ 確実に数が決められる
 ・ 他の魚を獲らなくて良い

<栽培する>
 ・ 弱い時期を育てたら確実に
 ・ 大きくなるし数が増える

◎立場を変えて考える資料提示◎
 水産庁「漁業管理機関の管理範囲図」画像資料
 ◎発問「世界ではこんなにたくさんの決まりがあるよ。」

めざす子ども像

⑦ **集約に向けて：発問「世界的に考えるとどれから先に取り組んだら良いと思う？」**
 日本だけで考えるのではなく、マグロを絶滅から守るために国際会議で話し合い世界できまりをつくっていかないとこれからも食べ続けることはできない。

- ☆検証のポイント☆
- ④⑤理念は素晴らしいが、それぞれ現実的な課題があることに気付かせる。
 - ⑥お互いの良さを認めつつ、不足な点を考えさせ、⑦互いのよさを生かすことができるように優先順位を考えさせる。
 - ◎まとまりかけた子どもの考えを揺さぶる資料を提示し、世界の海で話し合われている規制の内容が違うことを知ることで、めざす子どもの姿に（単元のねらい）に迫ることができる。◎


11 考察

[資料① 本時板書]

9 / 27 水産業のさかんな博多漁港

学習問題 これからもマグロを食べ続けるにはどうしたらいいだろう
めあて 学習問題の答えを話し合い自分の考えを確かめよう

マグロ



日本人の1番好きな魚
 世界消費量世界1位
 半分以上輸入
 最近外国でも人気
 数が減ってきている

マグロを守らないと!

とる漁業を考える

<漁師さんが工夫>
 ・ 網の目を大きくする
 ・ 休漁期間をつくる

・ 国際会議で獲る漁をきめている

日本だけが気をつけてもだめ3分の2は外国の船も獲っている

育てる漁業を考える

<養殖をする>
 ・ 和歌山で成功しているから
 ・ 獲ると魚がへるから

<蓄養をする>
 ・ 確実に数が決められる
 ・ 他の魚を獲らなくて良い

<栽培する>
 ・ 弱い時期を育てたら確実に
 ・ 大きくなるし数が増える

今日の学習で

数を増やすにも限界がある。
 環境にも気をつけないとえさ代の費用がかかる

【交流場面における児童の発言について】

これからもマグロを食べ続けるためには、つまりマグロを自分たちがいつでも食べられる今の状態を保つにはどうすればよいか考えて交流を深めた。「A：マグロのとり方を工夫する。」の児童はマグロをとりすぎないようにする工夫を漁師の〇〇さんの話を中心にして、網目と休漁期間の事を中心に説明していた。「B：マグロを育てて数を増やす。」の児童は、養殖と蓄養を中心に説明していた。両者の共通点としてそれぞれのきまりをつくってマグロを守っているという主張をしていたことから、お互いのきまりの内容を詳しく付け加えたり、確かめたりという話し合いになった。